

医師は語る



医療法人社団健翔会
堀口医院 理事長
堀口 裕

病気を治療するための5つのステップ

人生には限りがあります。決して無限ではありません。そう考えますと、一日でも多く健康で過ごし、一日でも多く満足感のある人生にしたいものです。

しかし、日々私たちはどんどん病気になるっていきま。その傾向は、根を詰めて頑張ろうとすればなお更起ります。万病病気になるってしま。何といっても限りある人生ですから必ず治さなければなりません。そして再び健康になって満足した人生を続けるべきです。

【ステップ1】 病気を治したいと思っているか

病気になるって喜ぶ人など、一人もいません。ただ患者さんの中には、とても消極的な人がおられます。「もうこのままでもいいです」と言われますと、そこから先へは進めません。「もう一度元気になるたい」そういう気持ちになってほしいのです。病（やまい）を治すのは、やはり患者さんの気持ち（こころ）です。

【ステップ2】 病気を治すことができるのは、自分だけだと理解しているか

過去に何度も経験したことです。が、「も

う先生におまかせしますので、私の病気を治して下さい」と言うのです。そのお気持ちは十分理解できます。医師の立場からしましても、何とかして治って頂きたいと思えます。しかし医師ができることは、それほど多くはありません。少なくとも私のできることは、とてもささやかなことです。ましてや患者さんに成り代わって病気を闘うことなどできません。基本的に病気を治す主導権は患者さんにあるのです。

【ステップ3】 病気を治せる方角を知っているか

どうすれば病気を治せるか、その方角を知っていなければなりません。これを知っていないと、手当たり次第いろいろな治療をやってみるだけで、一向に治らないのです。治療内容が間違っているというのではありません。自信が持てないのです。自信を持って実践できず、ただ不安な中で右往左往しているのです。自分の受けている治療が、治る方向を向いていることの確かさが必要なのです。それは病気を根こそぎ抜き取るための「自己防御力」を回復することなのです。

【ステップ4】 病気を治すことに専念できるか

病気になるたのだから、病気を治す努力を惜しみなく行うのは当然のことです。

しかしいざ実践してみると、私が要望している努力と患者さんが行おうとしている努力には、大差を感じます。その理由として一番多いケースは、「仕事があるから」、しかも立場的に自分は抜けれない、というものです。あるいは家族にとつて、自分が生活の柱になっているという場

合もあります。どれもとても良く理解できることです。しかし治療に専念できなければ、治療にはなりません。

【ステップ5】 気持ちを前向きにコントロールできるか

多分ここが最大の山場です。患者さんとしては「一日でも早く治したい」という気持ちです。「できれば来月には、遅くとも3か月も経てば完治したい」とそういう気持ちです。それは早く元気になって仕事もしたいし、外へも出かけて行きたいからです。でももっと本音をいえば、病気であることの不安や心配から、一刻も早く逃れたいからです。実際病気の治療で最も手ごわいのは、折れそうになるころを、いかに前向きなところになるかです。病気を治癒するまでには、相当な時間がかかります。もし癌ともなれば、なお更です。その間病気というよりは、折れそうになるころと闘い続けなければなりません。

さて、以上述べてきましたように、病気を治せるかどうかは患者さんにかかっています。お医者さんも一生懸命努力することです。

すが、主導権はまぎれもなく患者さんです。どうか病気になっている方々は、是非この危機を乗り越えて頂き、満足のできる人生を勝ち取って下さい。そして病気になるたら病気を治せばいいという考えではなく、はじめから病気にならないための努力こそが大事であることを理解して下さい。

【堀口裕先生プロフィール】

北海道出身。川崎医科大学医学部卒業。1992年香川県坂出市で医療法人社団健翔会 堀口医院を開院。現在堀口医院理事長兼院長を務める。世界で初めて細胞の中を調べる「細胞内検査」を独自に考案され、世界各国で特許を取得。またその細胞のコンディショニングを取り戻すための「還元電子治療」を独自に開発。2011年5月、世界中医薬学会連合会、自然療法研究専門委員会、副会長に就任。現在は、病気の根を調べる「自己防御力診断」と病気の根を治療する「還元電子治療」を駆使し、全国で1万6千人以上の患者の治療に取り組む傍ら、「根元の医療」と呼ばれる新しい医療を推進し、全国で講演活動を行っている。

病気を治すための5つのステップ

